

第43回

全道医家囲碁大会

名人戦は樋口栄作 6 段格が 4 連覇（通算 5 度目）！
本因坊戦は菊地一也 5 段格が 2 連覇！

第43回全道医家囲碁大会を終えて

全道医家囲碁連盟
副会長 前川 隆



平成28年11月20日（日）、今年も昨年同様、札幌市医師会館で開催されました。当日の朝は小雨まじりでしたが、11月にしては比較的温暖で積雪もありませんでした。今年の参加者は名人戦11名、本因坊戦10名の計21名で昨年より1名減でした。

開会は選手全員が揃いましたので予定より早く午前9時10分より、南田英俊副会長の司会で、三宅直樹会長の挨拶に始まり、筆者の競技ルール説明後すぐに対局となりました。

名人戦は1回戦シードの方もおりトーナメント方式で、優勝決定戦は昨年と全く同様の札幌市医師会の樋口栄作6段格と苫小牧市医師会の土屋潔6段となり、樋口6段格が優勝し連続優勝を4回にされました。通算優勝は5回です。

本因坊戦はハンデ戦で変則リーグ5回戦方式でした。優勝決定戦は、旭川市医師会の菊地一也5段格と同医師会の仲俊之4段格となり、優勝は昨年同様に菊地5段格となりました。入賞されました先生方におかれては、おめでとうございます。優勝を逃した先生方は来年の奮起再選を期待申し上げます。また、今回都合で参加できなかった先生方にも来年の多数のご参加をお待ちしております。

指導碁は上村収蔵プロ棋士により、今回は北海道国保連合会の伊藤一輔初段が指導を受けておられました。

懇親会、表彰式は南田副会長の司会により、北海道医師会長賞と全道医家囲碁連盟賞がそれぞれ三宅会長より入賞者に授与されました。懇親会途中で名人戦優勝決定戦の内容が紹介され、両選手と上村棋士との検討にも熱が帯びておりました。ちなみに筆者は名人戦に出場し、2勝2敗（1勝は不戦勝）で1勝できれば上出来と思っておりましたが、ラッキー賞も当たりありがとうございました。また、参加賞のお土産は大変おいしいお菓子でした。

最後になりましたが、毎年本大会にご支援ご協力をいただいている北海道医師会、メディコ北海道、損保ジャパン、札幌市医師会各位に深く感謝申し上げます。また、休日にも関わらず朝早くから会の進行にご尽力いただいた北海道医師会事務局の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

大泉和夫監事の昨年の大会を終えての追記によれば、本大会の26年前の第17回大会の参加者が58名もあり、特に本因坊戦の参加者が多く、2組に編成された時期がありましたが、以後、漸減傾向にあり大変残念に思っております。

会の発展のため一人でも多くの先生方の参加を期待しております。

第43回名人戦優勝記

札幌市医師会
ひぐち耳鼻咽喉科
樋口 栄作



この度、第43回全道医家囲碁大会名人戦に優勝することができ、大変うれしく思います。今年は例年以上に準備を進めて大会に臨みましたが、どの対局も難しい碁になり、優勝できたのは幸運でした。これで、第40回大会からの連続優勝を4回（通算5回）に伸ばすことができました。

今年も1回戦がシードとなり、2回戦からの対局は、武田圭佐先生、滝本昌俊先生、そして決勝戦の土屋潔先生と、どれも激しい戦いの碁になりました。以下は決勝戦の解説です。

<第1譜（1-50）>

白番の私は2連星で、左上隅の星（白2）への黒5の掛かりを受けて、右上隅の小目（黒1）に白6と二間に高掛かりました。白はミニ中国流布石を外す意図でした。続いて、左上隅の白2に対し、黒7と両掛かりから白14まで左上隅が一段落の後、黒15の掛かりから黒17と黒は下辺に立派な構えです。右下隅の黒3への白18の二間掛かりに対し、黒19とコスミ、白20の二間開きに、黒21の詰めから黒23まで、ゆっくりした進

行です。白24と右上隅に手を付けていき、白30のひらきまでゆっくりした進行は白の望むところです。黒は31から左辺に仕掛けて来ました。黒39まで左辺で収まった時に、白42と下辺に打ち込んだのは、酷い打ち過ぎでした。ここは、十八の4と左下隅を補強し、下辺の黒への打ち込みを狙う方が優れていました。黒43のツケから反発され白は困っています。

<第2譜 (51-100)>

この折衝で黒は53と左下隅を確保し、白54まで白は下辺を破りましたが、黒55と鉄柱で右辺から下辺まで25目ほどの確定地を確保しました。白は黒に両方打たれています。さらに、白56と左辺の渡りを止めた手は小さく、黒63と左辺の黒の一団が中央に進出しては、はっきり黒がリードしています。白64、66と右辺を補強したとき、黒67からの仕掛けは、良くなかったかもしれません。白74の置きを受けて、黒が損をしています。しかし、黒79のツケが素晴らしい様子見でした。手拍子で白80と反発したのが悪く、黒87まで黒にピッタリ締め付けられた上に先手で切り上げられてしまいました。黒89と中央に構えられ、依然として黒リードの局面です。白90と中央に迫りましたが、黒91のツケノビが良い手でした。黒97のハネに対して、薄い白は白98とつがざるを得ません。この時黒99とタケフに補強しましたが、九の11とカケツグ方が優れていたようです。

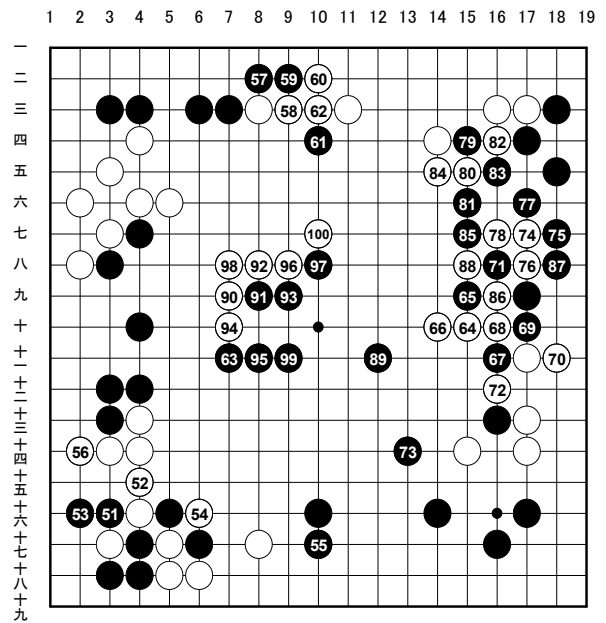
<第3譜 (101-)>

非勢の白は、白100とハネを利かし、白102、104と下辺の黒の模様を制限しながら、左下の一団を補強します。黒105から109まで中央の白を凹ませた後、黒111と下辺を仕掛けていったのは疑問だったかもしれ

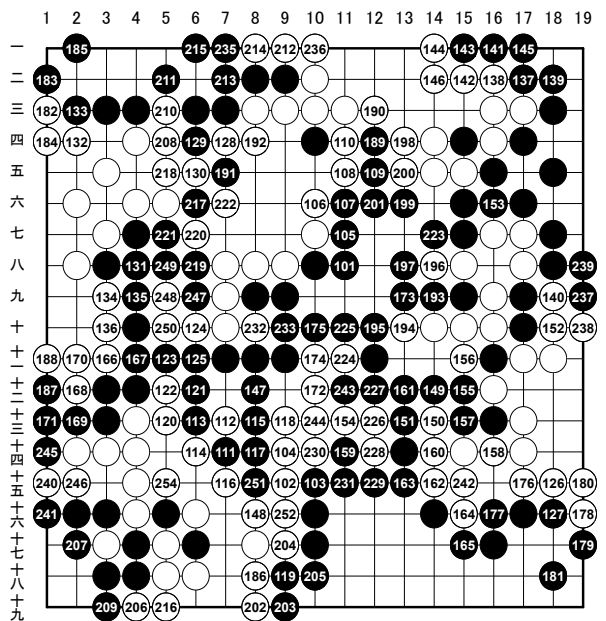
ません。白112のツケから反撃され、地を稼がれながら左下の白の一団に収まられてしまいました。尚黒119と大きなコスミで左下の白を追及しましたが、先手を取った白は、待望の白128に回り、上辺から中央に15目の地を確保しました。この時点で形勢は白が逆転していたかもしれません。この後も双方持ち時間ギリギリまで激戦を繰り広げましたが、結局白優勢のまま終局し、白9目半勝ちでした。

本局は、下辺への白42の打ち込みが打ち過ぎで、中盤まで黒が有望でしたが、白の辛抱が実り白100と先

<第2譜 51-100>

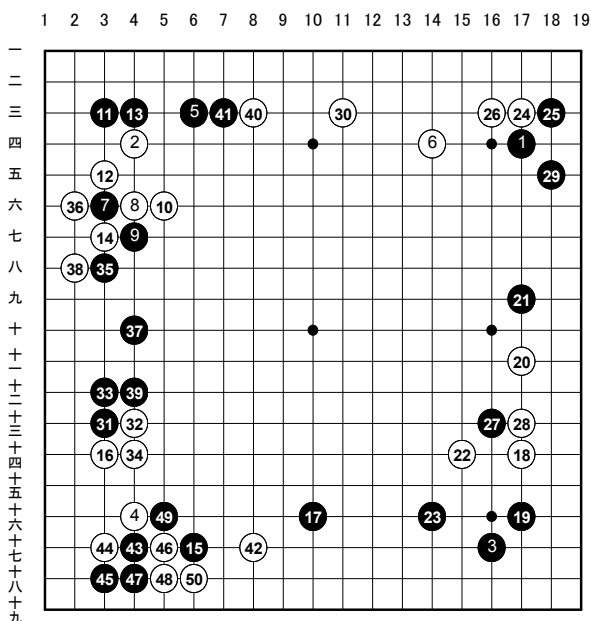


<第3譜 101-254>



234(16/八)

<第1譜 1-50> 黒：土屋、白：樋口



手で中央に地模様を作り、白102と下辺から中央の黒の地模様を制限した上に、白128に回って上辺から中央に15目ほどの地を確保することができて、形成逆転することができました。終局までずっと苦しい内容でしたが、優勝できたのは本当に幸運でした。

今回も北海道医師会の皆様の温かいご協力をいただき、とても充実した楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございます。来年は精進してもっと内容の良い碁が打てるよう頑張りたいと思います。三宅会長、南田副会長を始めとする役員の皆様、上村プロには、いつも大変お世話になり誠にありがとうございました。

第43回本因坊戦 優勝記

旭川市医師会
あおぞらクリニック
菊地 一也



昨年に引き続いて2度目の本因坊戦挑戦でした。ゲンがかついで思いつく限り前年の試合当日と同じように行動しながら会場へ。

その甲斐あってか、とてもリラックスして試合に臨むことができました。

昨年は4段、今年は5段格での挑戦です。

1回戦は古市武正先生との2子局。私の白番でした。2子置かせたのですからなかなか追いつくものではありません。辛抱が続く時間帯、中央に模様らしきものを拵げてみると、間髪入れずに黒が突入してきてそこでの折衝で勝敗が定まってしまいました。ちょっと黒にとっては一本調子すぎてもったいない碁でした。

問題の場面は完全に黒がリードしているところでしたので、中央はそのままにして右上スミを守ればよかったと思います。地合の差を拵げられたくない白としては右辺に打ち込まずにはいられないとヨンでいました。黒はわざと白を封鎖せずに中央に追いつくところでしょうか。すると逃げる白を追いかけながら黒も一緒に中央に進出。白模様は自動的に消滅するという寸法で、これなら相当参っていたことでしょう。

2回戦は私の先番（黒）でした。対戦相手の山家研司先生は6段格とのことで、実際なかなか隙がない強敵で苦戦しました。全4局のなかでもっとも際どかったと感じます。

中盤の終わりに、大石同士お互いに目を奪い合っ

て攻め合いをする手段を白の側から選ぶことができましたが、そうはなさらずにお互い活きに就いて終

盤戦へ。直後に白に痛恨の見損じが出て左下の一団が死んで（囲碁の用語は物騒ですね）、劇的に勝ちが転がり込みました。

白が攻め合いを挑まなかったのは、差があまりない微細な局面だったのもひとつの理由だったのではないかと推察します。

コウがふたつくらいついたりやこしい攻め合いで、ヨミきれものではありません。もしも大差で黒がよい形勢だったら、玉砕覚悟で攻め合いにされて、下手（黒）は間違いないぞしでかしたりして、果てに逆転即投了なんてことはアマチュアの対局においては日常茶飯事。まったくもってあの局面、接戦（それどころか実は私のほうが少し足りなかったでしょうか？）でよかったと胸をなでおろす次第です。

3回戦は3子局。私の白番でした。奇しくも前年と同じく3回戦で対戦した高畑勝彦先生。前の碁がこの碁の展開に影響を与えたように思えてなりませんので、少しだけ触れておきます。今回よりも置き石がひとつ少ない2子局で私の白番。なかなか追いつけず延々と苦しい戦いが続くなか、黒にミスが出て大石が頓死した碁でした。

今年は置き石がひとつ増えて、いっそう私にとって負担が大きいのは明白。前年とはとにかく黒の大石の生死が勝敗のポイント。死ななければ高畑先生の勝局でした。それで中盤の最後まで苦しめられたのですから、今年はさらに長い間の辛抱を覚悟。運がよければ終盤勝負か。あるいは終盤まで持ちこたえられないかと、思っていました。

置き石もひとつ増えているのだし、石が死ななければ黒が勝つのが妥当ではないかと、なかば開き直ったのは、リラックスにつながってよかったかもしれませんが、戦前好材料と言えるようなことは、まったくもってなかったのです。

当の碁の中身はといえば、中盤もたけなわ右下一間にトンだ白の2子を流れのなかで上手に黒が取り囲み、地合のリードを確かにしてみせた局面。案の定苦戦を強いられる白。2子で苦戦した相手に3子置かせているのだからまあこんなもの。ここで前年の碁が脳裏をかすめたものでしょうか。黒はさらに一手かけてガッチリと右下一帯を補強。これにて30目の確定地が出現。確かに右下については白からの手段は皆無。2手連続して打つても中で活きるなんてことはなさそうだから、コウ材にすらなりそうにない。黒はこの瞬間手ごたえを感じたものか。

一方で私は、その手を見るやほっとひと安心。30目の確定地は無論大きいけれど、どうにも手数がかかりすぎ。一手パスに似て、この瞬間大げさに言えばこれで3子のハンデが2子に減ったようなもの。急に元気が湧いてきたものです。後は気分よく打ち進めて白の9目勝ち。石が死ななければよいということにはならないらしいのです。

最後は全勝者同士の戦い。相手は仲俊之先生。本因坊戦優勝経験のある仲先生は、この日好調で、またさすがに強いものですから、楽ではなかったです。白番は私。序盤から一方的に攻め立てられる展開。黒の攻めがひと段落するまでは、ひたすら辛抱するしかありません。包囲されないようどこかにアタマを出しておかなければと、すっきりとした進出をうかがっていた矢先に、ぽっかりと中央に出口が開いたところで手応えを得ました。

両スアキみたいで価値が低い上辺に石を持っていった黒の攻めがどうだったか。反対に中央から石を寄せていって、白を価値の低い上辺に追いやれば(そうなると覚悟してその先をヨンでいたところでした)、黒の勝ちだったと思います。いや、勝ちというのは大げさかもしれませんが。でも、かなり黒が

よかったと思います。

今回はふたつみつつ負けてもおかしくないような内容でしたが、幸いすべての碁を拾うことができて幸運でした。

本因坊戦の上位を仲先生、高畑先生とともに旭川勢3人で独占する形となったことも、個人的にとっても印象深かった今回の全道医家囲碁大会でした。

末筆になりましたが、このような機会を与えてくれた三宅直樹会長をはじめとする幹事の先生方に感謝いたします。上村収蔵先生には昼食休憩の際に道内の囲碁事情なども含めたくさんのお話をいただき、勉強になりありがとうございました。いつもスムーズな運営をなさっている医師会のスタッフの皆様にも、あわせて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第43回大会成績表

【名人戦】

順位	氏名	得点
優勝	樋口 栄作	34
準優勝	土屋 潔	27
第1位	滝本 昌俊	26
第2位	南田 英俊	25
第3位	岡村 廉晴	24

【本因坊戦】

順位	氏名
優勝	菊地 一也
準優勝	仲 俊之
第1位	高畑 勝彦
第2位	山家 研司

(敬称略)

お知らせ

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について

◇救急医療部◇

当会ホームページでは急病・急な症状時の対応を紹介する「応急手当WEB」、救急医療機関の適切な利用について理解を深めてもらう「救急医療啓発パンフレット」を掲載しております。

これらの情報をより一層周知することにご協力いただけます医療機関におかれましては、自院ホームページに下記掲載URLへのリンクをお願いいたします。

なお、リンク掲載後のご連絡は不要ですが、今後の連携強化のため、リンクのご一報をいただければ幸いです。

●応急手当WEB

<http://www.hokkaido.med.or.jp/firstaid/>

●救急医療啓発パンフレット

<http://www.hokkaido.med.or.jp/hokkaido/ambulance.html>

連絡先：北海道医師会事業第二課

TEL 011-231-1725 FAX 011-210-4514 E-mail 2ka@m.douji.jp